

## 平成 20 年度 中小企業診断士

### 第 1 次試験分析

平成 20 年 8 月 2 日・3 日に実施された中小企業診断士第 1 次試験につきまして、データをもとに振り返ります。平成 18 年度に試験科目の変更、科目合格制の導入、合格基準の弾力化などの制度改正が行われた 3 年目の傾向となります。ぜひご参照ください。

#### 1. 試験結果について

平成 20 年度の 1 次試験は、受験者数 13,564 人、合格者数 3,173 人、合格率 23.4% という結果になりました。過去 5 年間の 1 次試験の結果をまとめると、表 1 のようになります。

表 1 1 次試験の結果の推移

	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度
申込者数	15,131	13,476	16,595	16,845	17,934
受験者数 (A)	12,554	11,000	12,542	12,776	13,564
合格者数 (B)	1,970	2,445	2,791	2,418	3,173
合格率 (B) / (A)	15.7%	22.2%	22.3%	18.9%	23.4%

平成 19 年度と比べると、平成 20 年度は受験者数の 6.2% 増加に対し、合格者数はそれよりも多く 31.2% 増加しました。そして、合格率は 4.5 ポイント上昇しています。

合格率が 20% を超えたのは 2 年振りであり、合格者数が 3,000 人を超えたのは平成 14 年度以来 6 年振り (平成 14 年度の合格者は 3,355 人) となりました。合格率や合格者数等の状況からは、平成 20 年度の 1 次試験の難易度は下がったことが伺えます。

#### 2. データリサーチに基づく分析

##### (1) 平均点から見た難易度

毎年 1 次試験後に実施している TAC のデータリサーチ に基づく平均点は表 2 のように推移しています (ただし、配点・正解は平成 16 年度までは未公表のため TAC の推測に基づいています。平成 17 年度以降は診断協会公表の配点・正解に基づいています)。

表 2 平均点の推移

	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度 (A)	平成 20 年度 (B)	差異 (B)-(A)
経済	61.9	66.6	53.7	56.3	64.0	7.7
財務	45.3	69.7	56.9	52.9	52.8	0.1
企業	132.6	123.1	61.4	58.4	60.0	1.6
運営	51.3	47.8	63.1	62.8	61.5	1.3
法務	45.4	49.9	59.8	61.9	56.7	5.2
新規	57.9	65.3	-	-	-	-
情報	52.1	58.1	67.6	64.4	56.4	8.0
中小	124.7	126.9	56.5	57.1	68.0	10.9
総合点	57.0	60.7	59.8	58.9	60.0	1.1

データ総数：平成 16 年度 1,071 人、平成 17 年度 1,243 人、平成 18 年度 1,274 人、平成 19 年度 1,155 人、平成 20 年度 1,386 人。

企業と中小は平成 17 年度まで 200 点満点。また新規（新規事業開発）は平成 17 年度まで実施。

総合点は、1 科目あたり（100 点満点）に換算した得点率（％）のこと。

まず総合点（100 点満点に換算した場合のデータリサーチ参加者の得点〔平均点〕）を確認すると、平成 17 年度以来 3 年振りに、全体の合格基準である「6 割」に達しました。また、平成 19 年度に比べて 1.1 ポイント（100 点満点に対する 1.1 点）上がっています。このことから、全体の難易度は下がったことがわかり、合格率が上昇したことを裏付けるデータとなっています。

次に科目別で確認してみましょう。平成 19 年度と比較して平均点が上がった科目は経済、企業、中小の 3 つで、これらの科目は難易度が低く（易しく）なっています。逆に平均点が下がった、つまり難易度が高くなった科目は財務、運営、法務、情報の 4 つです。もっとも、財務の差異は僅か 0.1 ポイントですので、「横ばい」とも言えます。

もう少し細かく見ていくと、平成 19 年度における平均点の上位 1～3 科目、言い換えれば難易度が低い 3 科目（情報、運営、法務）の平均点が下がっています。逆に、平均点の下位 4 科目、言い換えれば難易度が高い 4 科目のうち 3 科目（経済、企業、中小）の平均点が上がっています。

この傾向、つまり難易度の高い科目の平均点が下がり、難易度の低い科目の平均点が上がる傾向は、平成 18・19 年度にも見られました。平成 18 年度から、年度間で生じる難易度を調整するための「合格基準の弾力化」が導入されています。しかし、平成 18～20 年度

ともに「合格基準の弾力化」は実施されていません。これは、試験実施側の本音として、「合格基準の弾力化はできる限り行いたくない」ということが伺えます。そのために、難易度の平準化（難しい科目を易しくし、易しい科目を難しくすること）に努めていると考えられます。

ただし、平成 19・20 年度には 1 科目だけ例外があります。それは、平成 18 年度において難しいほうから数えて 3 番目だった財務が、平成 19・20 年度ともに、平均点が下がって、より難しくなっていることです。後述しますが、財務は 40%未満の割合も上がり、科目合格者数も減っています。この 2 年間は、財務の攻略が 1 つの鍵と言えます。

最後に、中核科目（90 分科目）と基礎的な科目（60 分科目）で比較すると、平成 18～20 年度とも最も難しかった科目（平均点が低い科目）は、基礎的な科目です（平成 18 年度は経済、平成 19・20 年度は財務）。基礎的な科目は、本来は「基礎的な内容」が出題されるはずですが、平均点を見る限りでは、中核科目・基礎的な科目と難易度とは必ずしも一致しないこととなります。

## （2）40%未満の科目

もう 1 つの合格基準である「40%未満の科目」について確認してみましょう。データリサーチにおける各科目の 40%未満の割合は表 3 のとおりです。平成 18 年度は 10%を超える科目はありませんでしたが、平成 19・20 年度は財務が 10%を超えています。しかも、財務の 40%未満の割合は年々上昇しています。

なお、平成 19 年度に 9%の割合だった経済と中小は、平成 20 年度に割合が低下しています。（1）とも重複しますが、基本的には各科目の難易度の平準化は行われているものの、財務の難易度が高止まりしている状況が伺えます。

表 3 40%未満の割合

	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度
経済	7.8%	9.7%	1.5%
財務	8.7%	12.7%	15.5%
企業	1.6%	2.0%	2.8%
運営	1.6%	1.6%	1.9%
法務	3.2%	2.3%	5.3%
情報	1.1%	1.9%	7.5%
中小	6.0%	9.6%	1.1%

## 3. 科目合格制について

平成 18 年度から、新たに「科目合格制」が導入されました。これは、1 次試験全体（7 科目 700 点）において合格基準に達しなかった者に対して、科目毎に設けられた合格基準を満たした科目について、翌年度および翌々年度の試験において当該者の申請により当該科目を免除するというものです（科目毎の合格基準においても「弾力化」は行われていないため、各科目の合格基準は満点（100 点）の 60%（60 点）です）。診断協会から発表された各科目の合格率等は表 4 のとおりです。

表 4 科目合格者のデータ

	平成18年度			平成19年度			平成20年度		
	科目受験者数	科目合格者数	科目合格率	科目受験者数	科目合格者数	科目合格率	科目受験者数	科目合格者数	科目合格率
経済	13,233	1,253	9.5%	12,575	1,328	10.6%	12,850	3,621	28.2%
財務	13,140	1,358	10.3%	12,455	829	6.7%	13,171	537	4.1%
企業	13,246	2,998	22.6%	11,607	1,664	14.3%	12,108	2,063	17.0%
運営	13,049	2,945	22.6%	11,270	2,905	25.8%	10,861	1,880	17.3%
法務	12,942	2,172	16.8%	11,834	2,600	22.0%	11,448	1,789	15.6%
情報	12,494	4,881	39.1%	9,878	3,490	35.3%	9,966	1,435	14.4%
中小	12,849	1,024	8.0%	12,519	1,112	8.9%	12,853	3,531	27.5%

ここまで見てきたように、財務の難易度が高止まりしている状況にあります。科目合格者のデータもそれを裏付けており、平成 19・20 年度ともに科目合格者数が 1,000 人を下回り、科目合格率も 10%を下回っています。

次に、診断協会から公表された「科目合格者」の受験番号をもとに、科目合格者の合格科目数を算出したものが表 5 です。「科目合格者」の受験者が存在する平成 19・20 年度は概ね同じ「科目合格者率」であり、60%弱となっています。

表 5 科目合格者の合格科目数

合格科目数	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度
6 科目	26	10	16
5 科目	160	103	138
4 科目	758	428	513
3 科目	1,654	1,134	1,188
2 科目	2,358	2,345	2,420
1 科目	2,965	3,549	3,614
総数 (A)	7,921	7,569	7,889
受験者数 (B)	12,542	12,776	13,564
科目合格者率 (A)/(B)	63.2%	59.2%	58.2%

さて、ここまで科目合格者について見てきましたが、科目合格者には 1 次試験の合格者（試験合格者）を含んでいないということに注意が必要です。

そこで、試験合格者（全体の合格基準を満たした者）がどの程度「科目合格」をしているかについて確認してみましょう。TAC のデータリサーチでは受験番号を入力していただいております。その受験番号から試験合格者を抽出して、科目合格数を集計したものが表 6 です。なお、平成 19・20 年度については試験合格者のうち、7 科目を受験した人（免除科目がない人）を対象としました。

表 6 試験合格者の科目合格数

合格科目数	平成 18 年度		平成 19 年度		平成 20 年度	
	合格者数	構成比 (累計)	合格者数	構成比 (累計)	合格者数	構成比 (累計)
7 科目	101	15.3%	55	16.0%	60	14.3%
6 科目	165	40.4%	97	44.2%	134	46.2%
5 科目	211	72.5%	98	72.7%	121	75.0%
4 科目	128	91.9%	72	93.6%	90	96.4%
3 科目	50	99.5%	20	99.4%	13	99.5%
2 科目	3	100.0%	2	100.0%	2	100.0%
1 科目	0	100.0%	0	100.0%	0	100.0%
計	658	-	344	-	420	-

平成 18～20 年度まで同じ傾向で、試験合格者においては、5 科目合格（5 科目の合格基準も満たしているという意味。以下同じ）の者までで全体の 7 割超を占めており、3 科目合格の者まででほぼ 100%となります。この結果から、（科目合格ではなく）1 次試験の合格を目指すためには、7 科目中 5 科目で合格基準（60 点以上）を満たせる実力を身につけることが望ましいといえます。3 科目合格の実力でも 1 次試験を合格することは可能ですが、その場合は当該 3 科目でさらに高得点を取ることが求められるでしょう。

#### 4. 総括

制度改正が行われたこの 3 年間の傾向から、以下の方策が考えられます。

まず、ストレート生（初学者）については、バランスよく得点できる状態を目指すのが得策でしょう（少なくとも 5 科目で合格基準を満たせるだけの実力を見につけることを念頭において下さい）。そのためには、各科目満遍なく学習し、得意・不得意を極力少なくして、苦手科目をつくらぬようバランスよく学習することが望まれます（得意・不得意が生じたら、得意科目の学習はほどほどにして、不得意科目の学習時間を増やす等の取り組みが望まれます）。

再受験者（科目合格者）については、基本的には残った科目に集中することがセオリーです。もちろん、「どうしても 60 点を取ることが難しい」という苦手科目があれば、得意な科目を追加して、リスクを下げることも考えられます。ただし、その場合でも、優先すべきは受験しなければならない科目（免除できない科目）です。まず、受験しなければならない科目の底上げを優先して下さい。そして、受験しなければならない科目（のみ）の受験で合格基準を満たすことがどうしても難しいと判断したら、得意科目を追加することを検討して下さい。試験の申込みは 5 月からですから、追加すると意思決定するのはその時期で間に合います。今の時期は、TAC の上級講義等を利用して、受験しなければならない科目を合格水準まで引き上げることに専念して下さい。

#### TAC データリサーチ

第 1 次試験受験者が Web 上で解答を選択することで、即時採点・合否判定が可能なシステム。全国から入力されたデータを集計し、様々な分析結果を提供している。